



横浜の宝

横浜市立小学校長会
会長 永野 美雄

横浜市小学校教育研究会の会員の皆様におかれましては、横浜市立小学校の教育の向上を目指して日々活動されていることに、改めて敬意を表するとともに感謝申し上げます。

今年度は、昨年3月からの休校が5月まで続き、学校では3か月間、対面による指導が実施できませんでした。6月から学校が再開されたものの、分散登校、短時間授業の制約の中で学習指導が1か月間続き、各学校ではカリキュラムの見直しを迫られました。

そのような折、小教研では学校現場の窮状への支援に動き、各教科等研究部会でカリキュラムを例示していただきました。各学校ではそれを参考にしてカリキュラムを再編成し、見直しをもって指導を行うことができました。各教科に精通した小教研の方々だからこそその資料提供であったと感じています。また、今年度に入って急遽、GIGAスクール構想が走り出し、来年度から児童一人1台のタブレット端末が導入されます。その効果的な活用の仕方を探ることが現在、喫緊の課題となっています。この点についても小教研の対応は早く、各教科等研究部会にGIGAスクール構想のプロジェクトチームを立ち上げ、研究を開始されました。教育現場のニーズを捉え、組織的に対応される姿に敬服します。

私事ですが、横浜市小学校理科研究会長を2年間務め、神奈川県小学校理科研究会の会合にも出席してきました。そこで強く感じたのは横浜のスケールメリットです。およそ340校を母数とする研究組織の力強さです。学年部会をはじめ、教科の特色に応じた部会を設置し、学年の特性や専門分野の系統性などを研究できることは横浜の力であると感じています。横浜の教育を質の向上に資するところは大きなものがあります。また、小教研は自らの授業力を向上させようとする先生方の受け皿になっています。学ぼうとする先生方のニーズに応えるしっかりした組織が身近にあることは横浜の宝であると思います。

ブランデーの等級の一つにVSOPがありますが、プロの教師への道程としてのVSOPがあると耳にしたことがあります。V(B)estを尽くす時期、Specialを身に付ける時期、Originalityを発揮する時期、そしてProfessionalへ。小教研はいずれの段階にも応えてくれる組織であり、多くのProfessionalを育ててきた実績があります。これは尊いことです。

これからも横浜の子どもたちのために、小教研の研究活動がますます発展されますことを祈念します。